



抗がん剤は、細胞分裂や増殖が活発な細胞にダメージを与え、治療効果を期待します。しかし、正常な細胞も細胞分裂や増殖は活発で、抗がん剤の影響を受けやすいと言われています。その影響を受けやすい器官の一つに「口腔粘膜」が挙げられます。口腔粘膜は、菌が体内に侵入するのを防ぐ役割がありますが、抗がん剤の影響により、細胞が破壊され防御機能が破綻すると口内炎や粘膜炎が発生すると言われています。また、抗がん剤の影響で唾液量の減少や、唾液の性状を変化させ口腔内の乾燥を引き起こすことが知られています。

ます。米国の調査では、抗がん剤治療を受けた患者さんの10人のうち4人に何らかの口腔内の障害が出ていると報告があります。口腔内のトラブルは味覚障害や食欲低下とも関連があるため、今現在、自覚症状がなくとも予防につながる歯磨きや口腔内の保湿、入れ歯のケアなどは重要です。ケアの方法でお困りごとは、医師や歯科医、歯科衛生士、看護師、薬剤師にご相談ください。

看護局 菊池 早輝子